へ 13
4087
4

早稲田大学図書館

十編下

十編上

富士之物

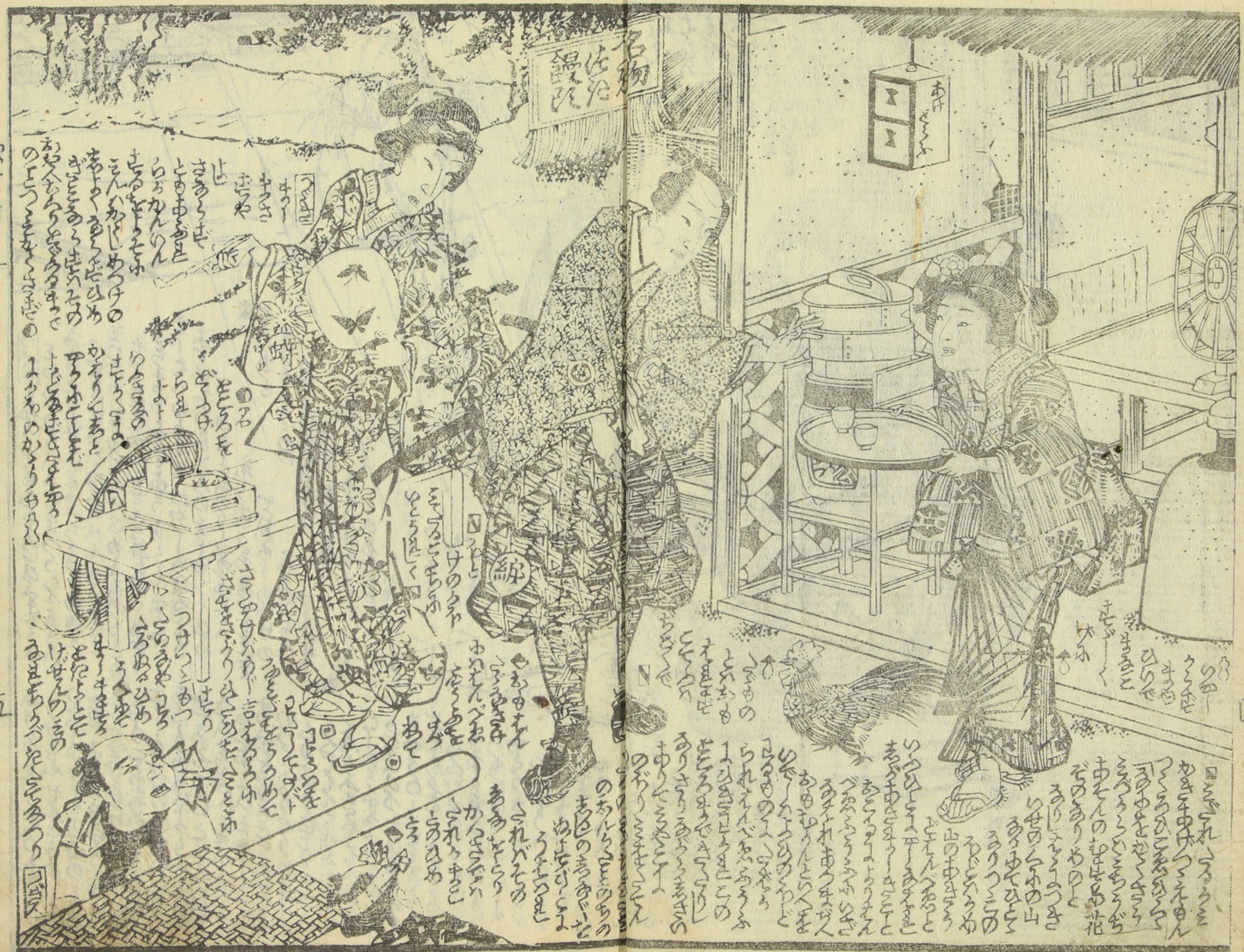
文年の秋より奥舟ホ室町源氏と披露して丑春ホそで二歳経ね間ホ
七八編と陸続刊行已ホ十編を葉さるホらくり傾花園ヲ花御呼へ
乗入んとまるホ至る夢又る蝶の一睡の隙よ一部の結構の半ホ暫ぶ
筆ハ重く〳〵淀ミなく促しめふ御貝ゝ須の力ル綯る綱手縄私で口重よ
りづミ川二編よ二人が相乗の鹿背山胡蝶が心の鞘當不和とハえぬ
名児屋帯縁のり〳〵まてるぜ掛〳〵ど油ぎろくる實を残し花ホ
〳〵る〳〵菜の葉の蝶雛鳳の名のお由もよや葦端ゆもよ本ろぬ
長編飽で御覧ぜさせめ

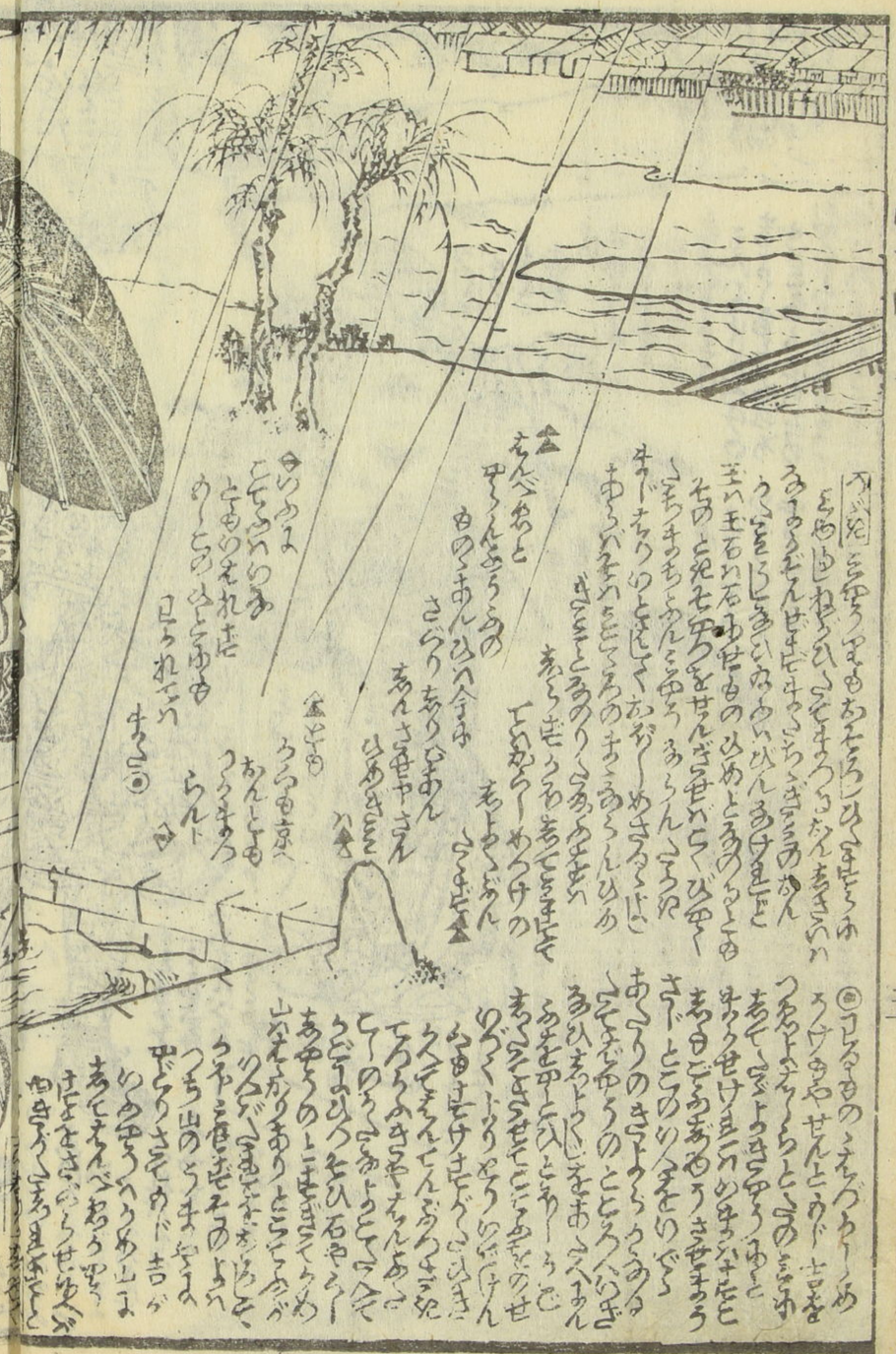
慶應二年丙寅春新彫

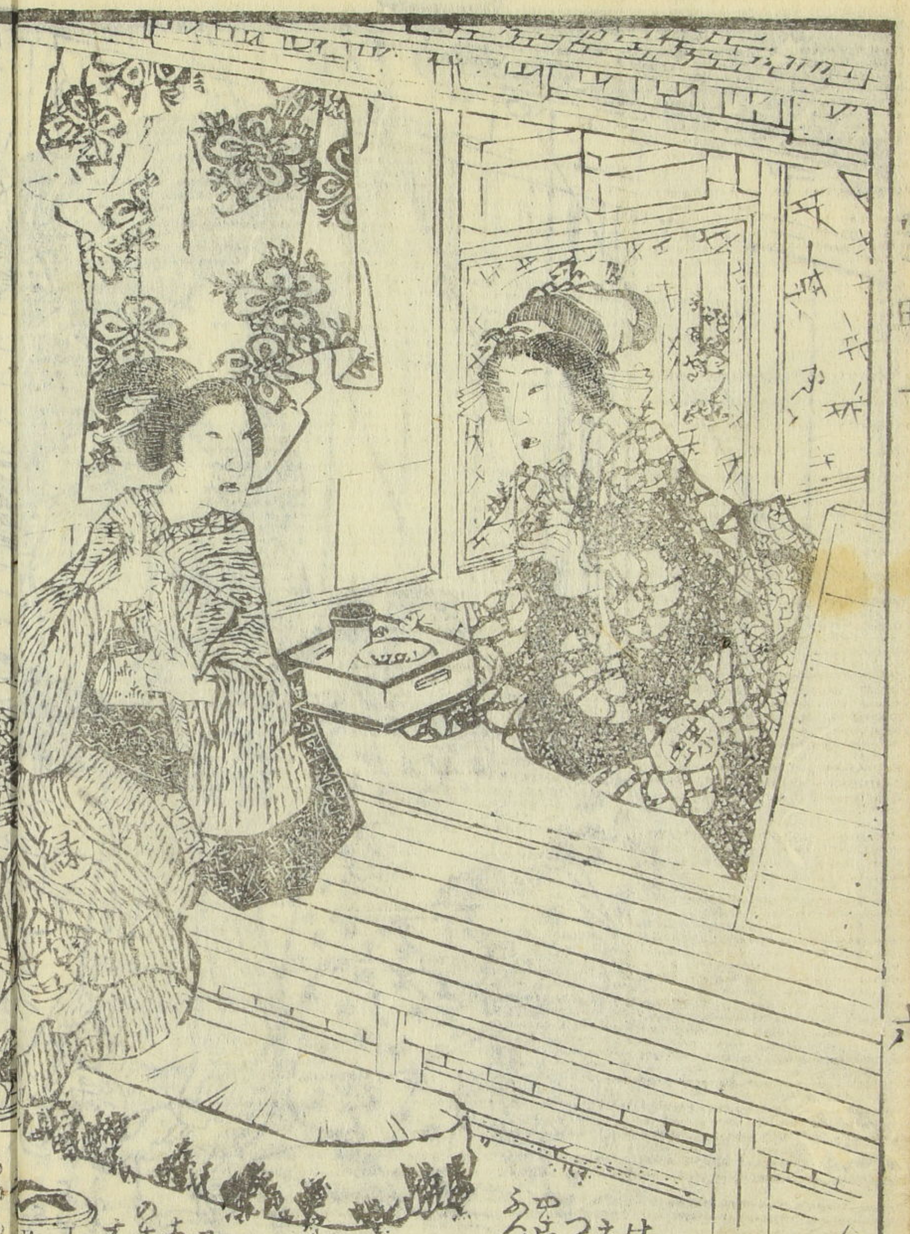
柳亭種彦

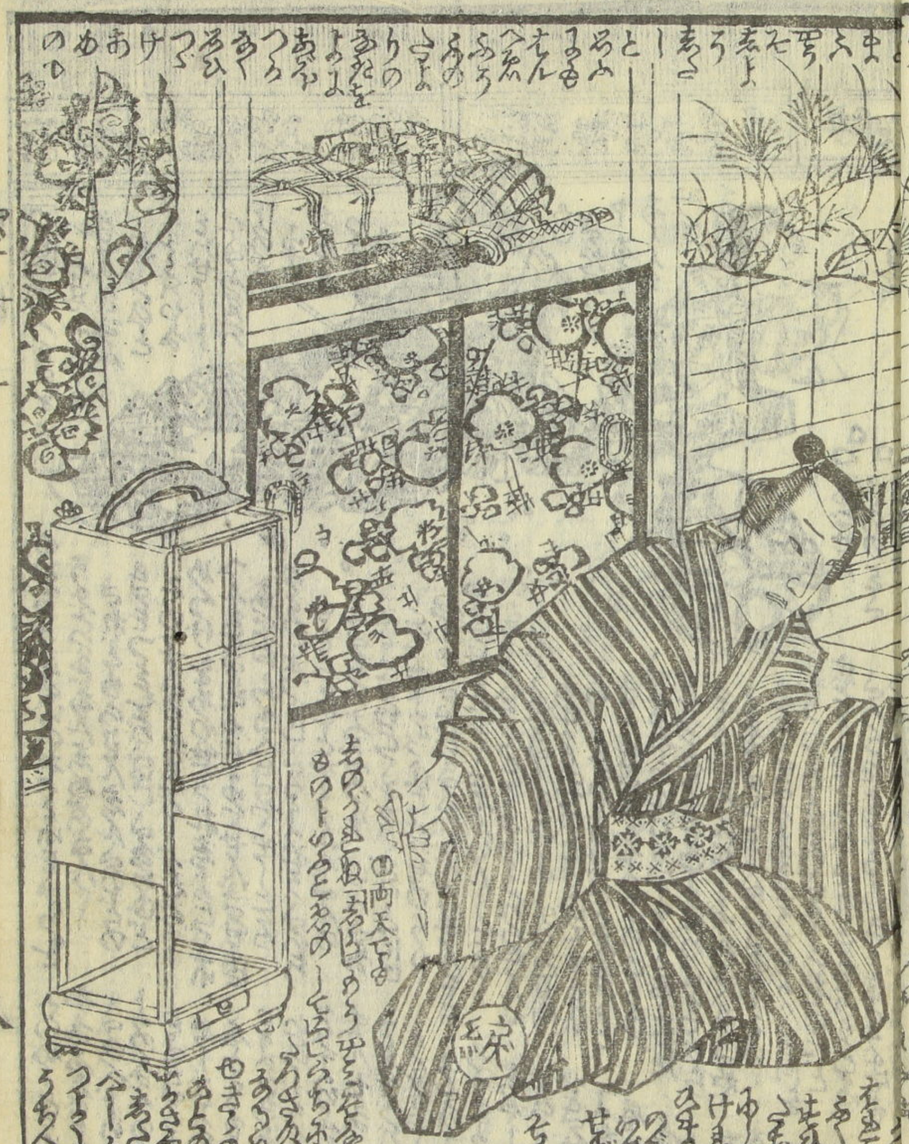
鬼骨細次郎

鹿園花亭
笠置八重土器

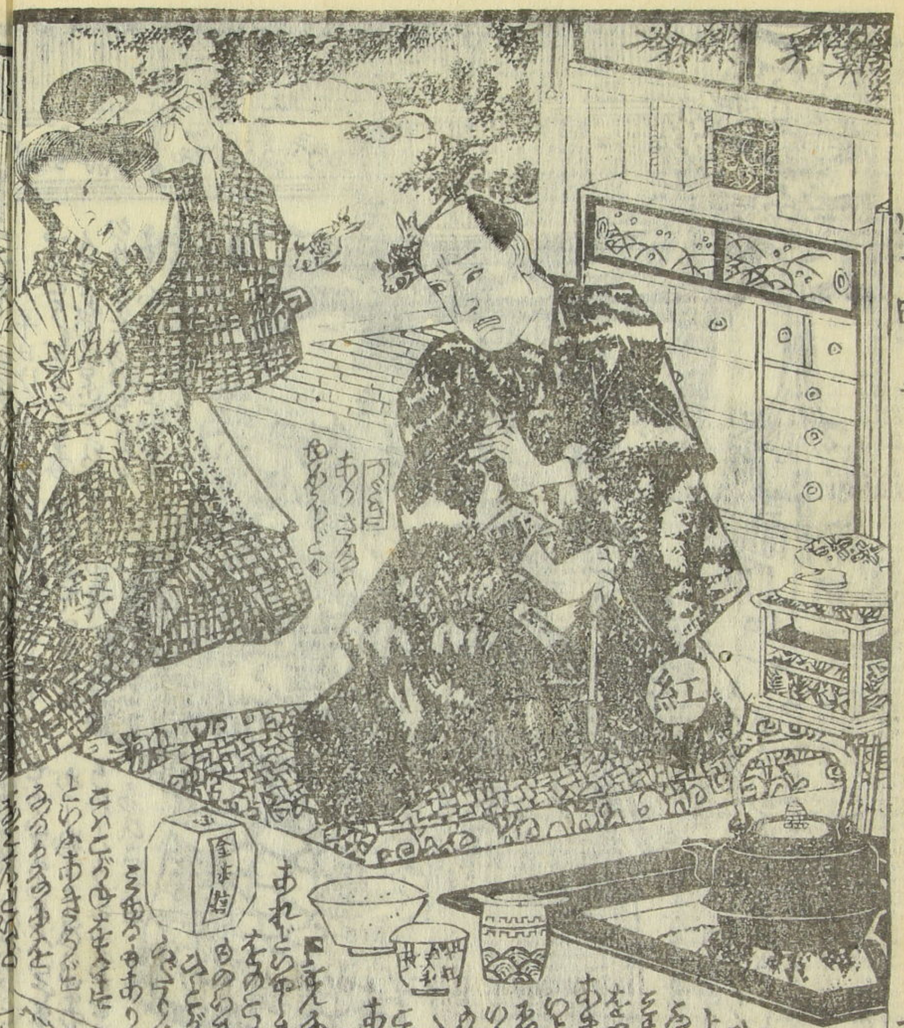


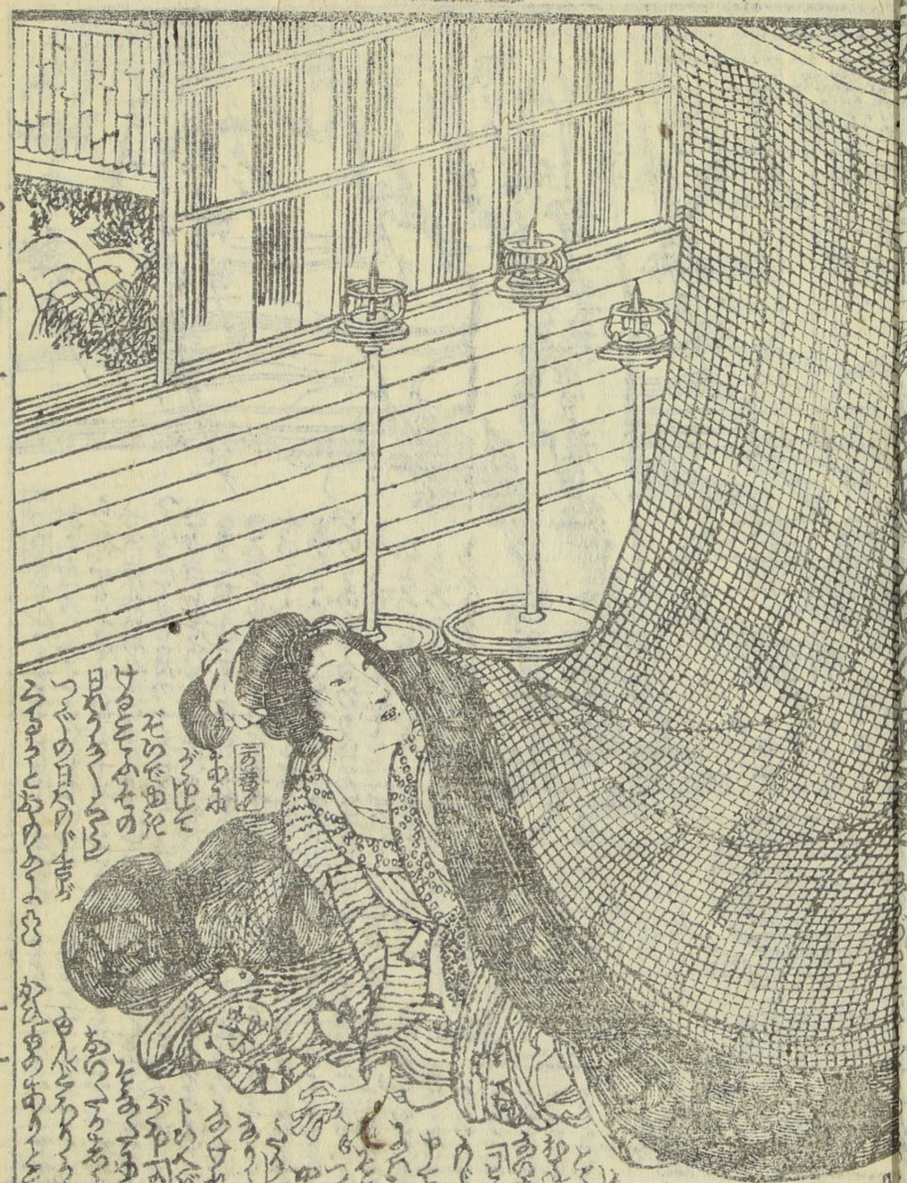


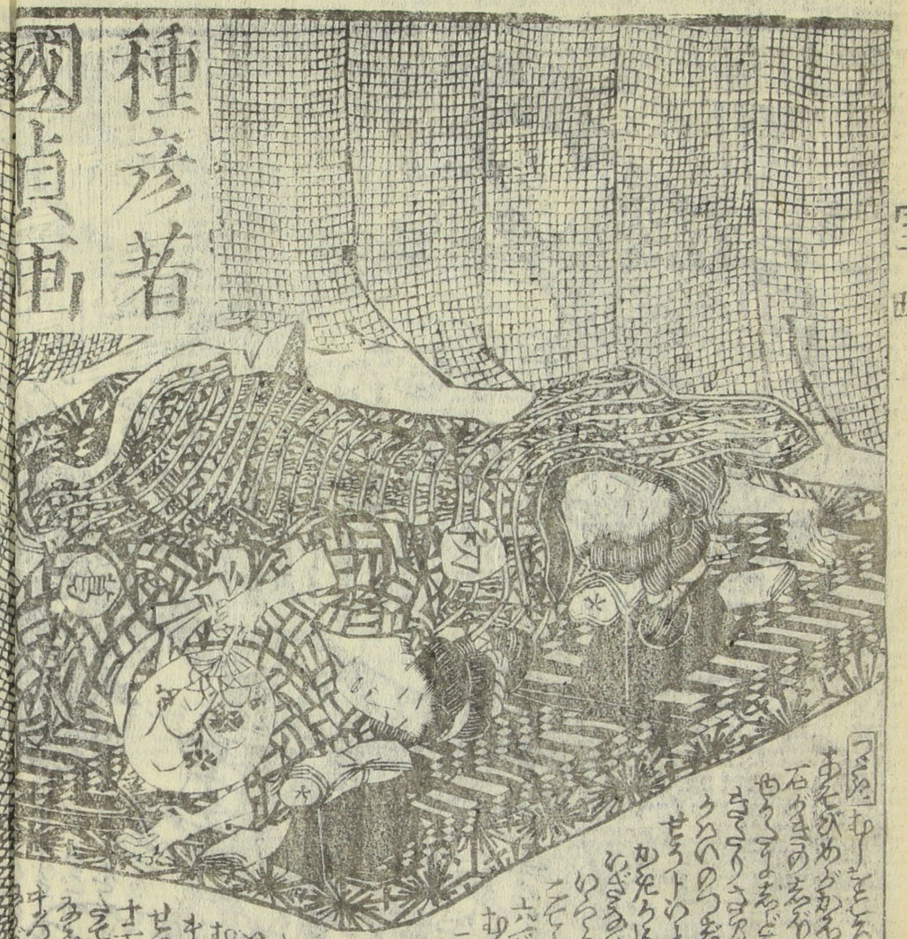



宋

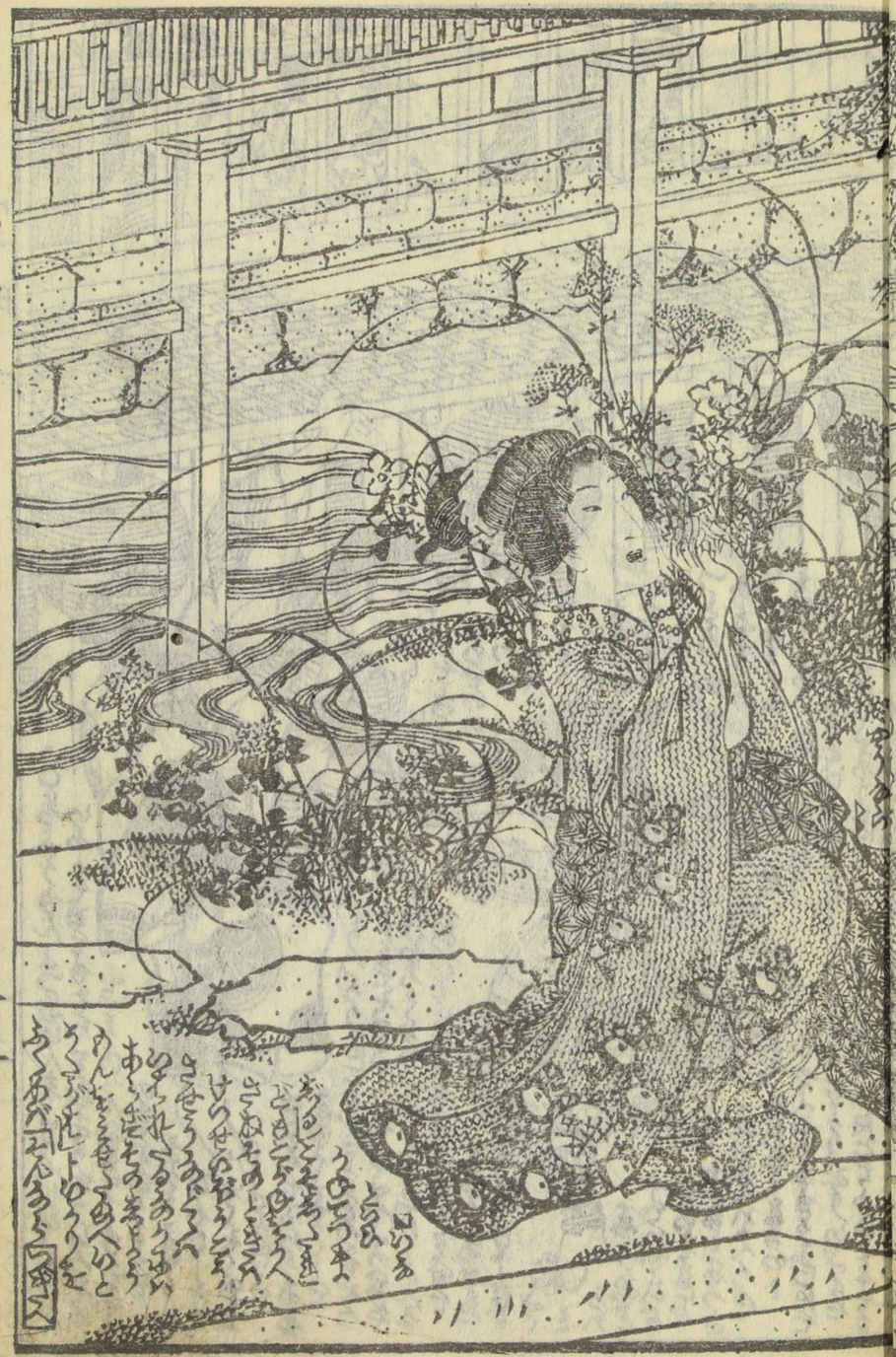
緑
紅
横

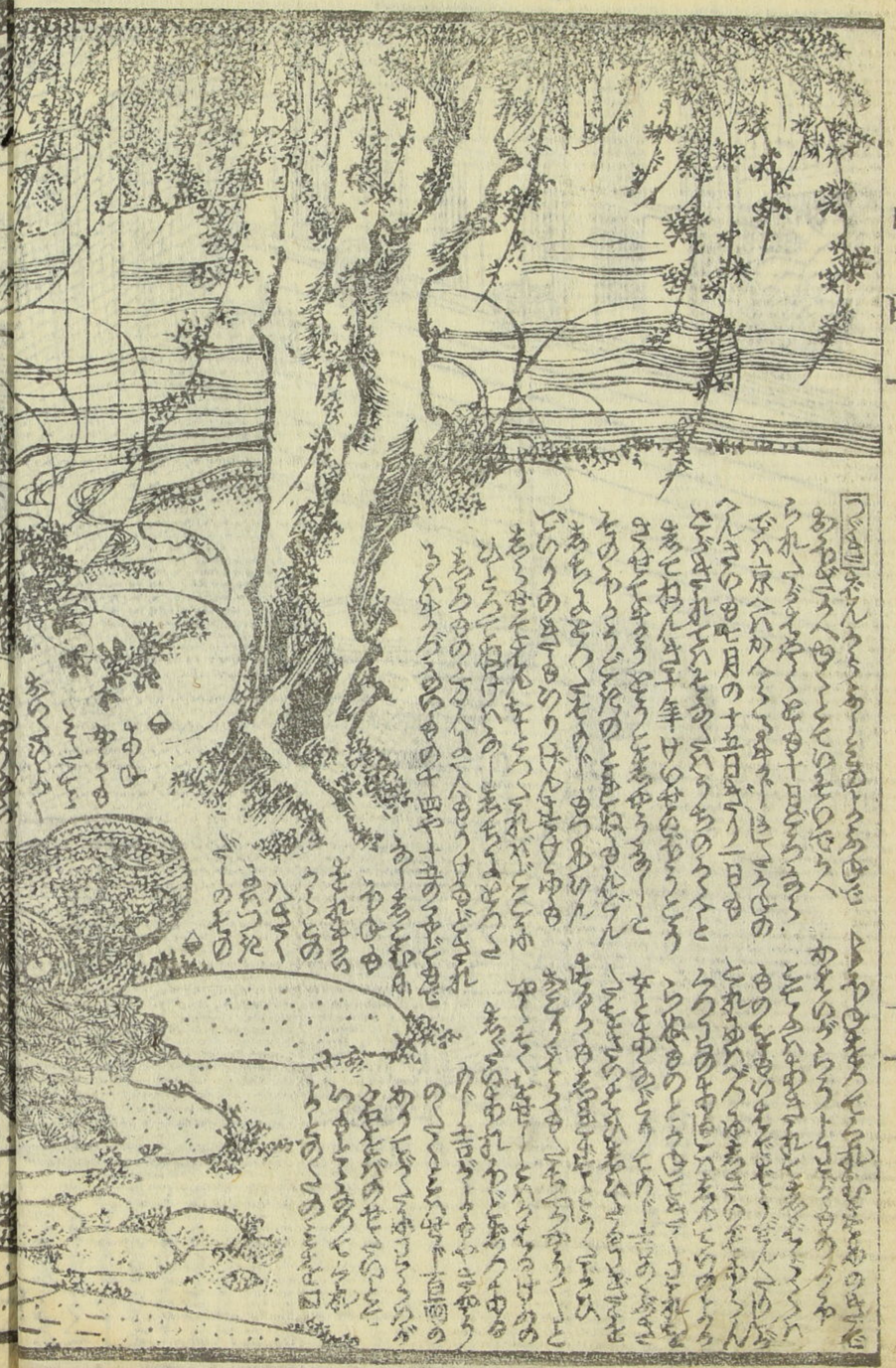

緑
紅



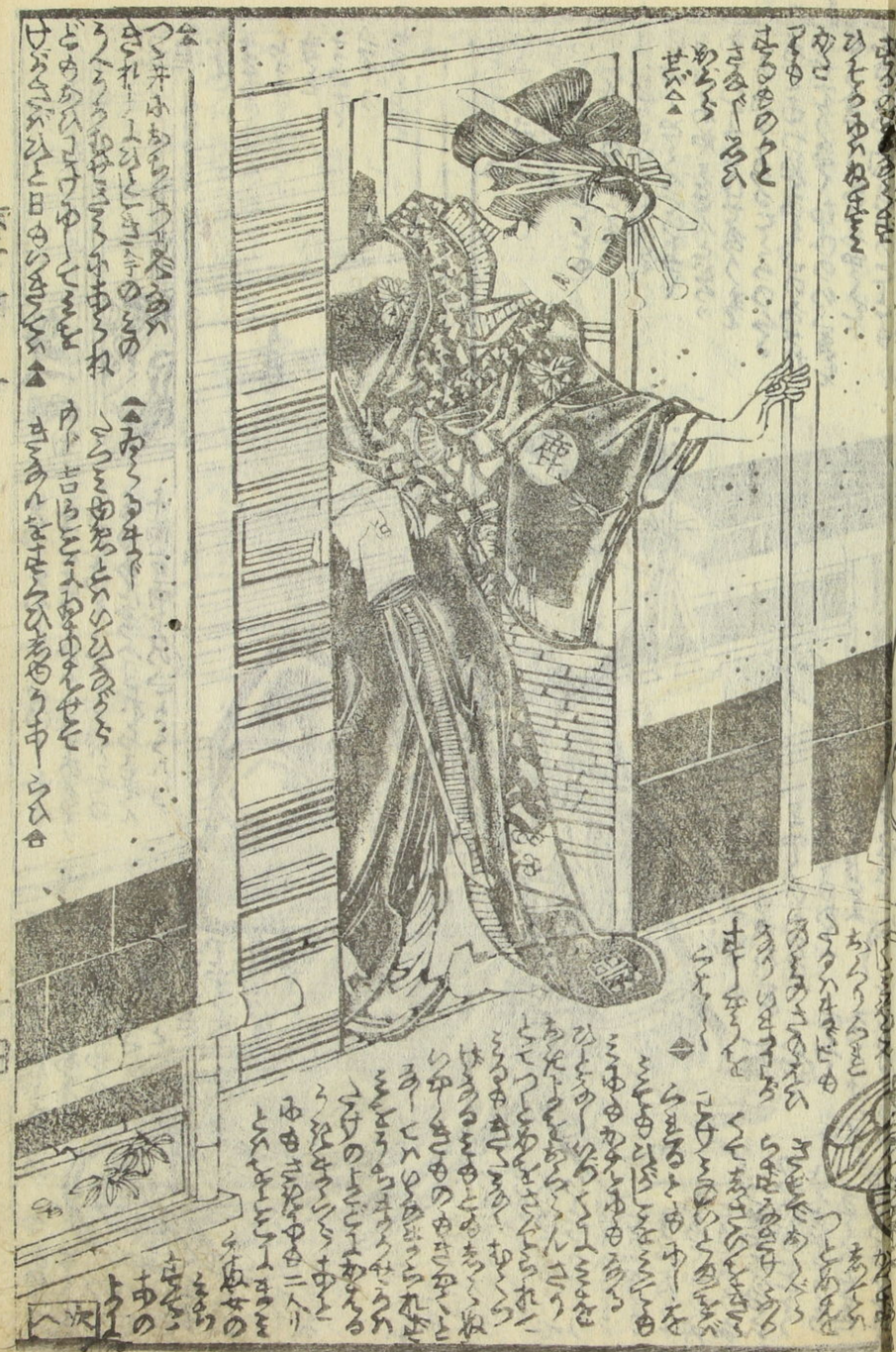


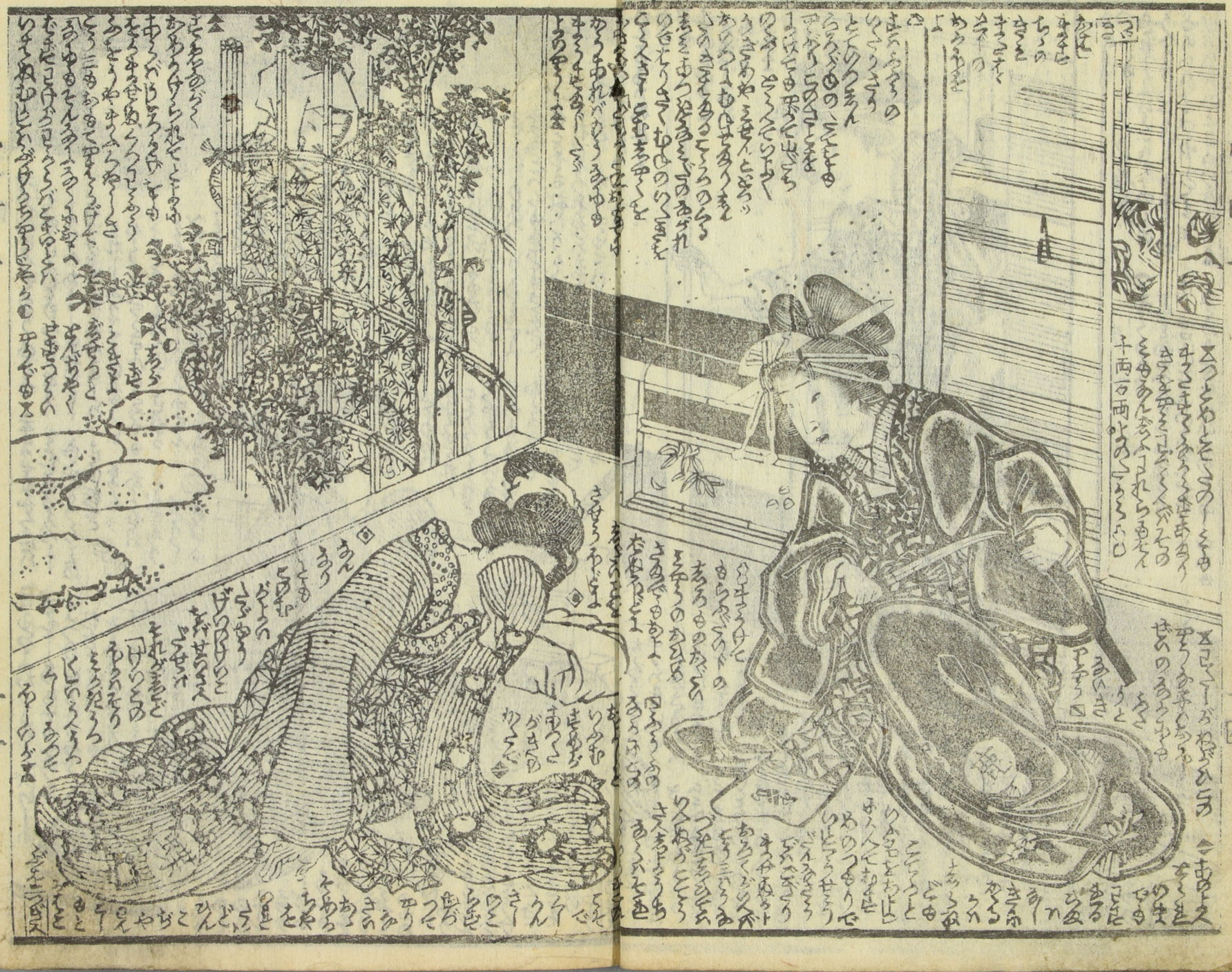
種彦著
國貞画

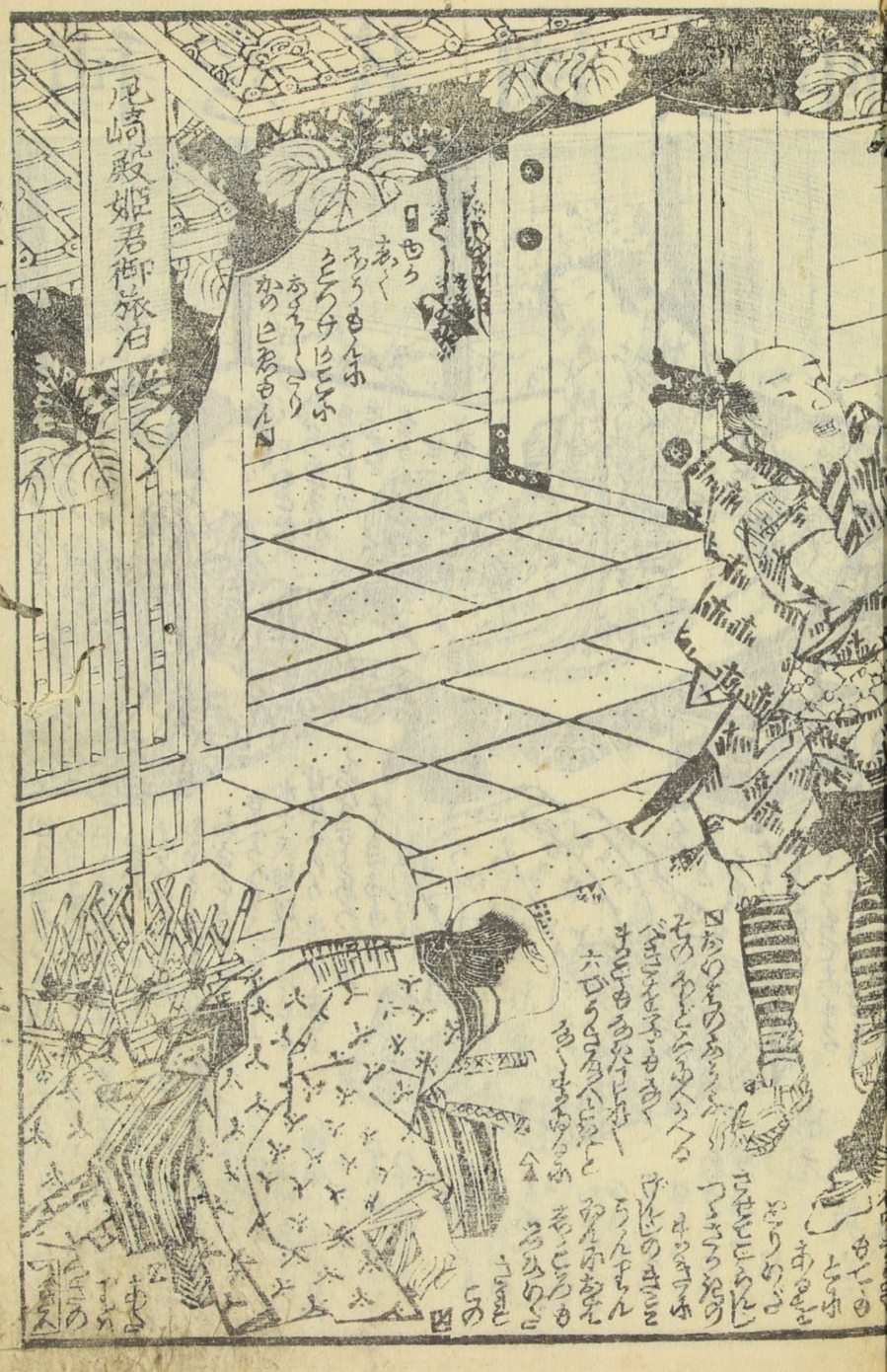




その一





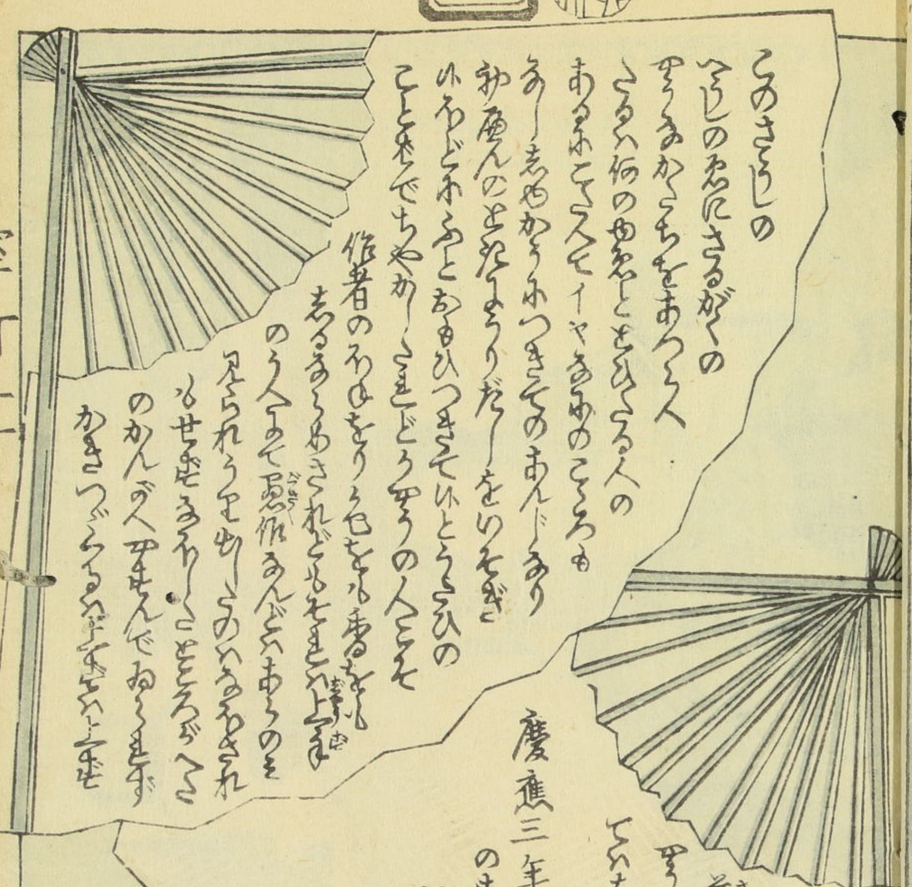

尾崎殿姫君御旅宿

画図貞國著彦種

天保十二年辛丑初春

彫元 紅英堂

小磯
原日
街
種彦作
國貞
十一編下
十一編上
英泉



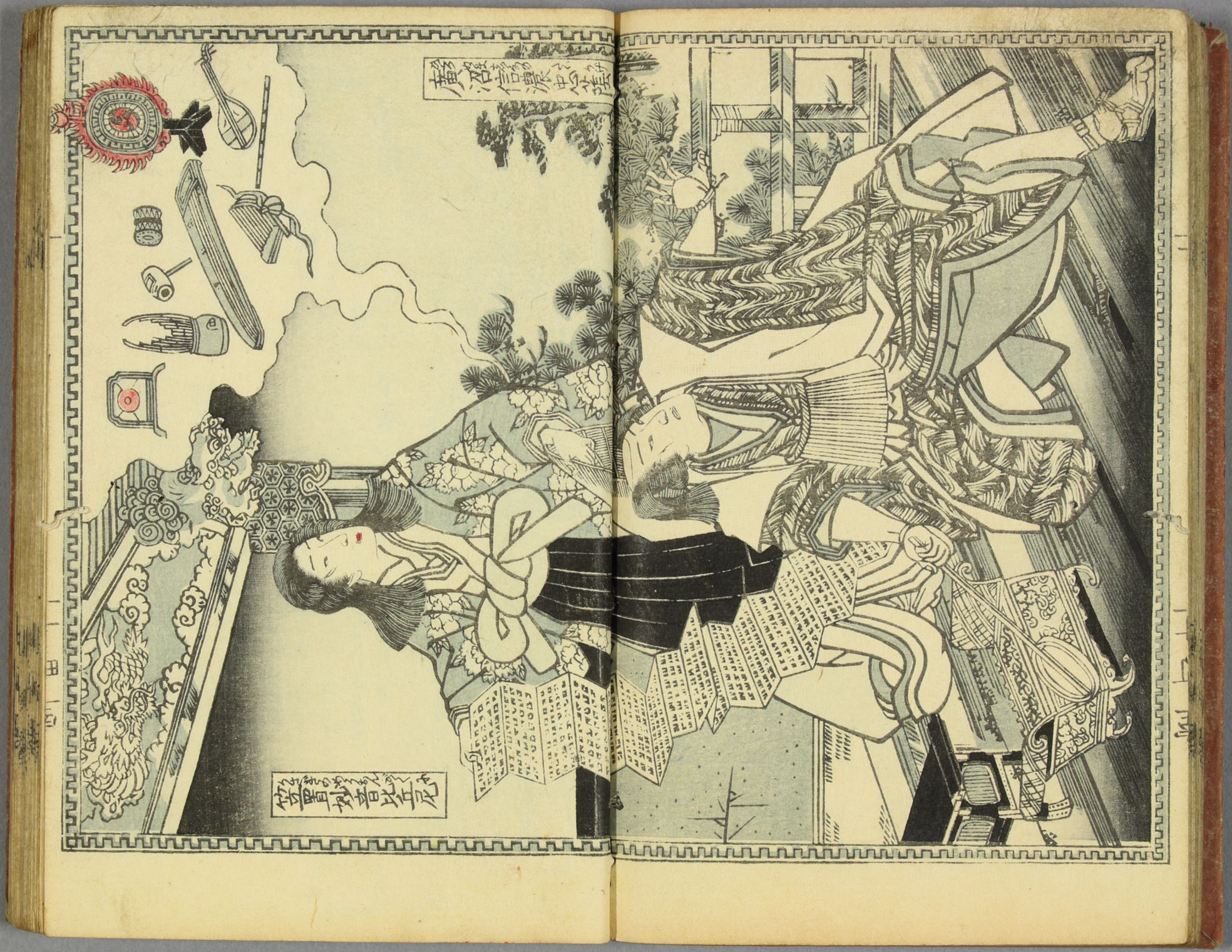
このさうしの
ゝしのあたにさるがく
のかうまかくちをあつゝく人
ゝるへ仙のあをとをひくる人の
あるふことうへイヤあめのこゝろも
ゐ〳〵あやかうふつきそのあんど〳〵り
和歌んのよをよりだ〳〵をりそぎ
ゐりどふふとおもひつきそひとうゝ
ことをでちやか〳〵とどうをうの人
作者のわはをりゝ色をもも
まるまうふされどもも
のうへんでおんぶ
ゐられうをゆ〳〵
ゐせをまり〳〵
のかんのへもん
かきつゞるゞ

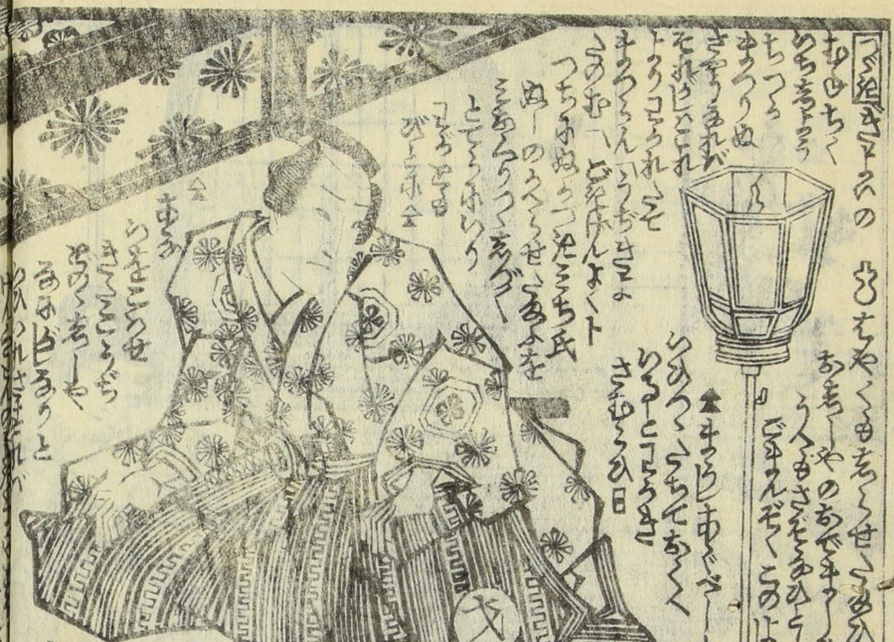
慶應三年
の春
折ゝる
ゐねひと

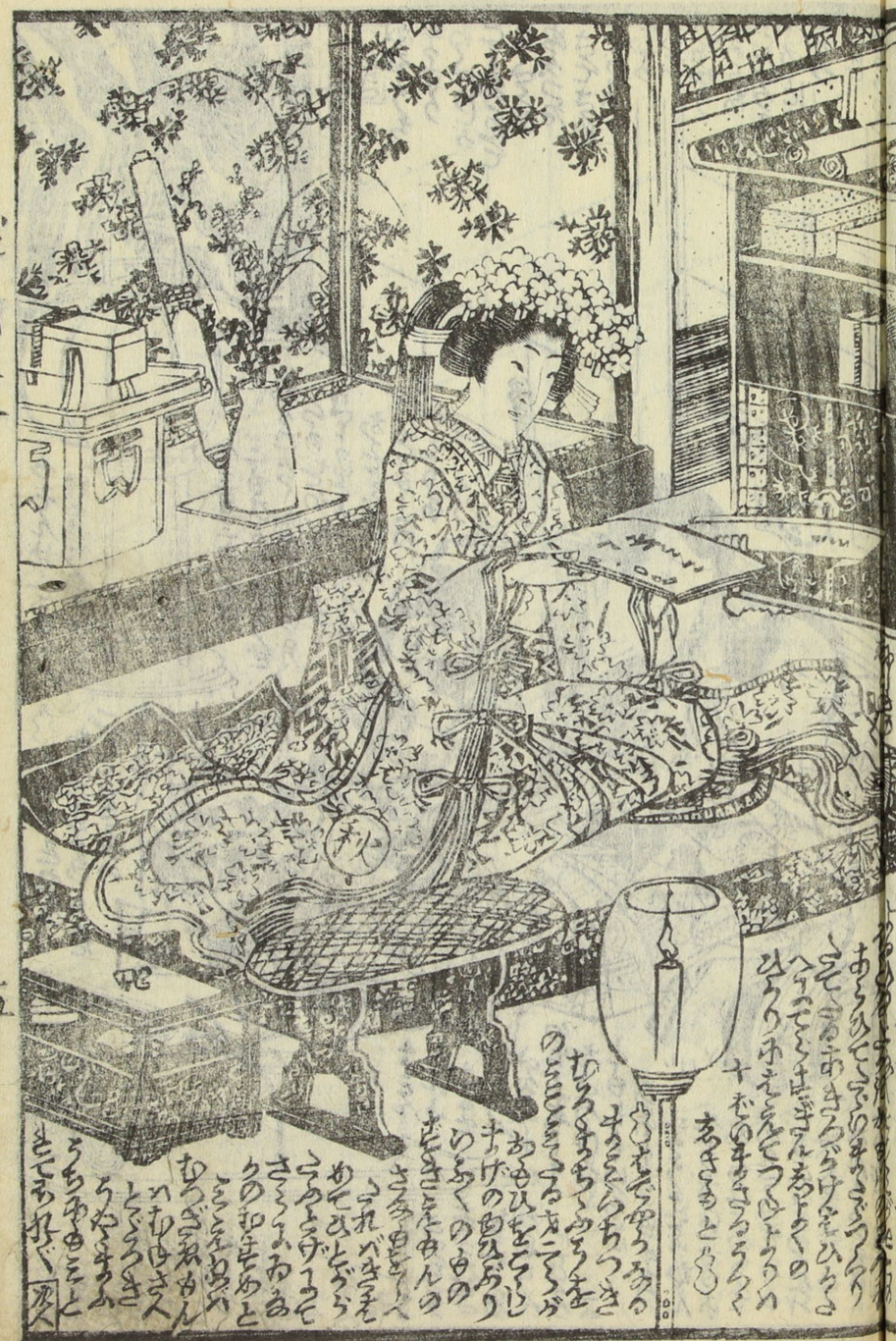
室町十二

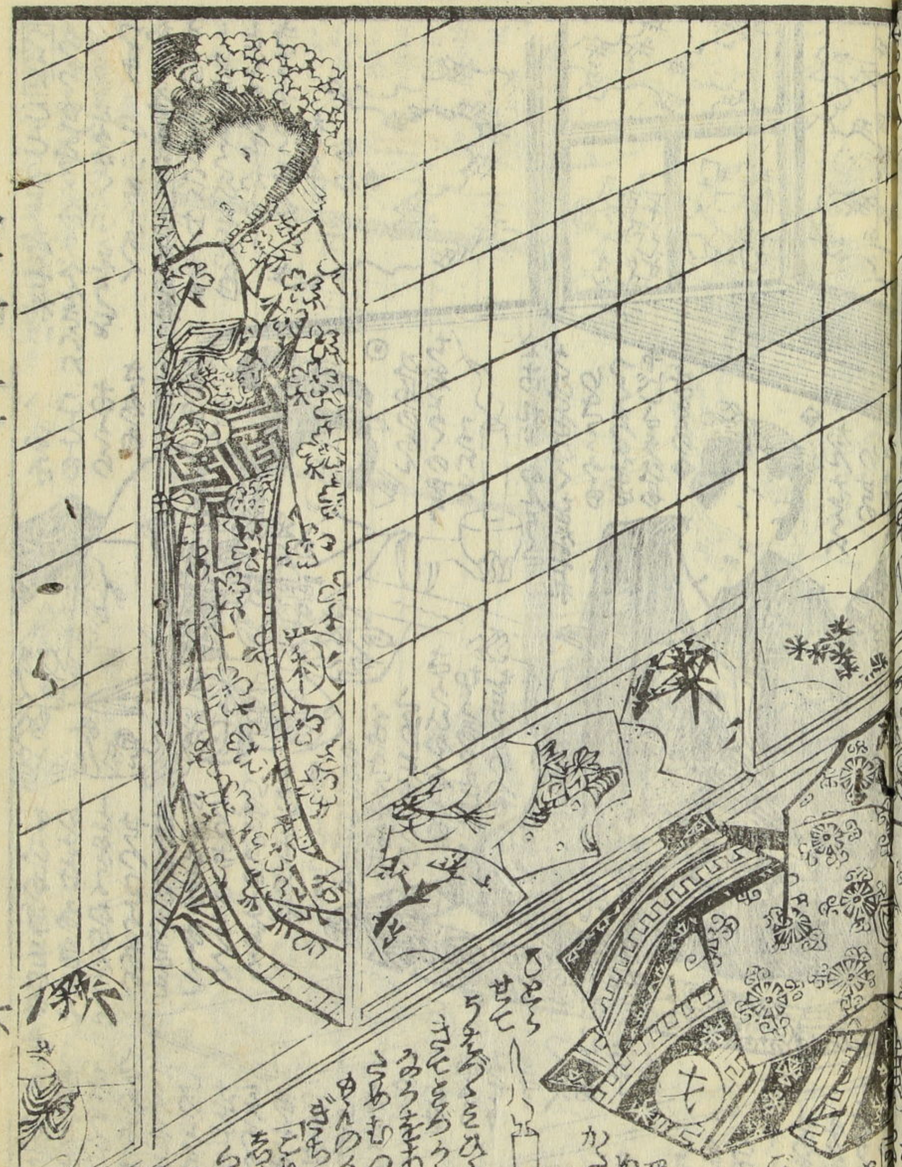
くさんのことをおもひけてつゝみをゝ
兄功者の合巻ぬのおとろのを
ゝのみよこてのさうしをも
戦さの際のはぐむちうやめの
ゐるかきぶりゑゝ対ゆもう
ゝんぐひをりとひろゝた

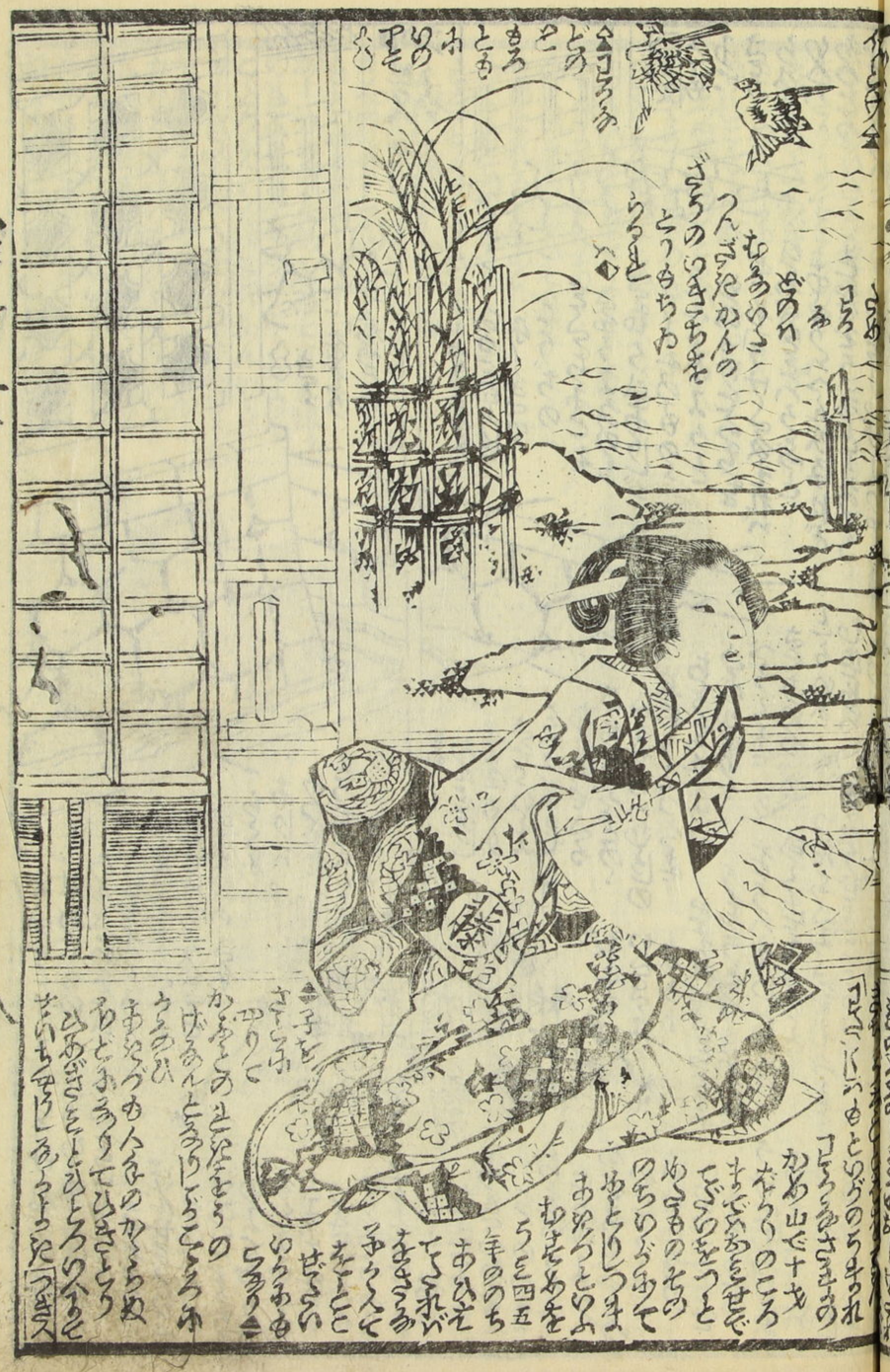
迷惑を
序とも

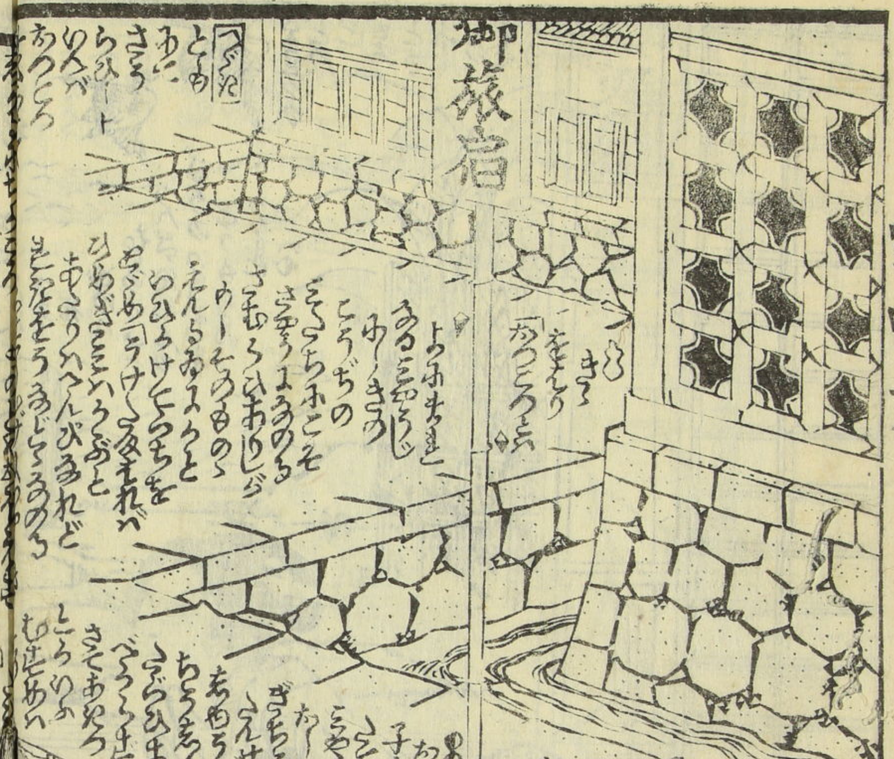




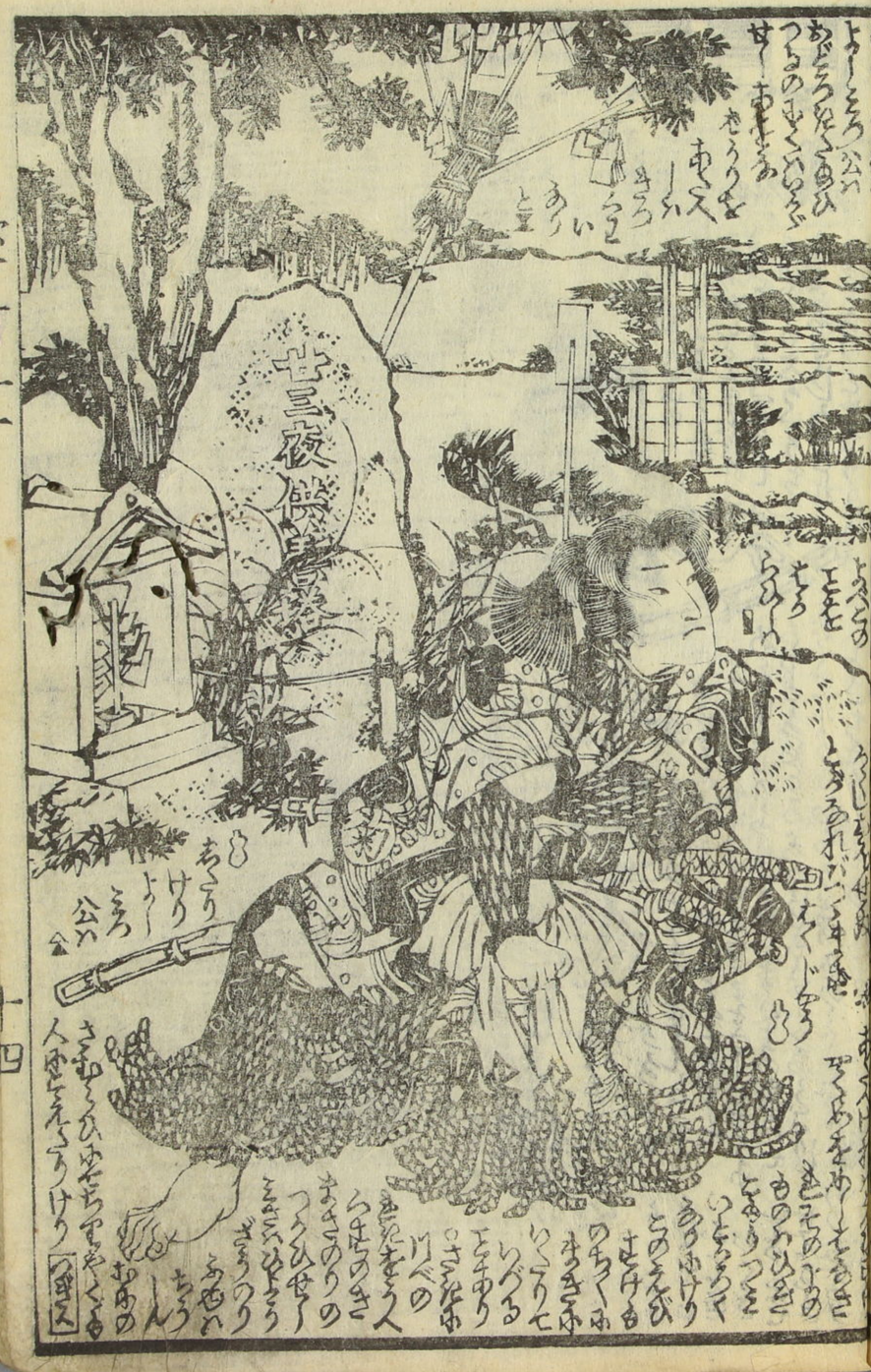






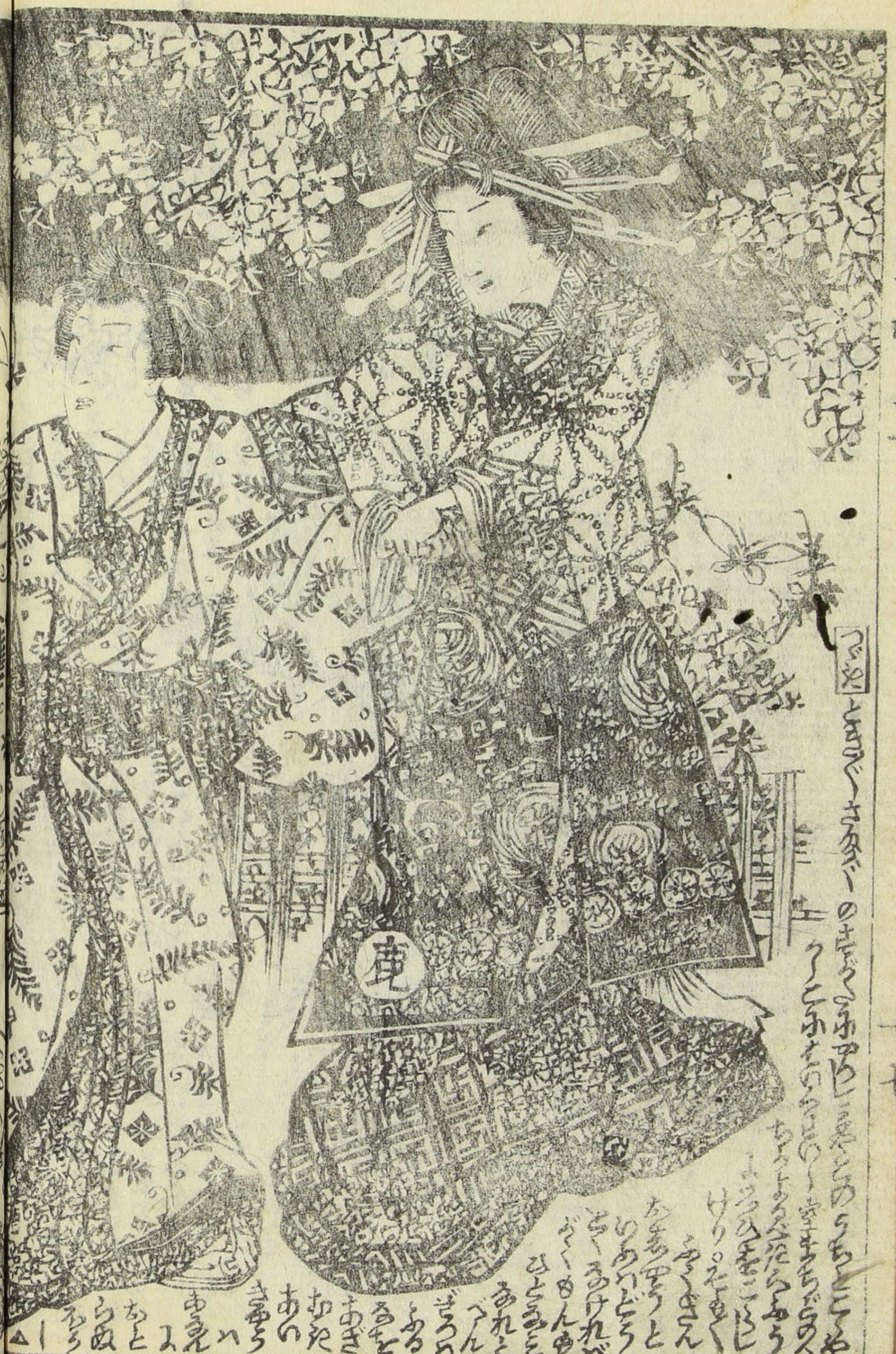

御旅宿

作者種彦
画工國貞


三夜餅

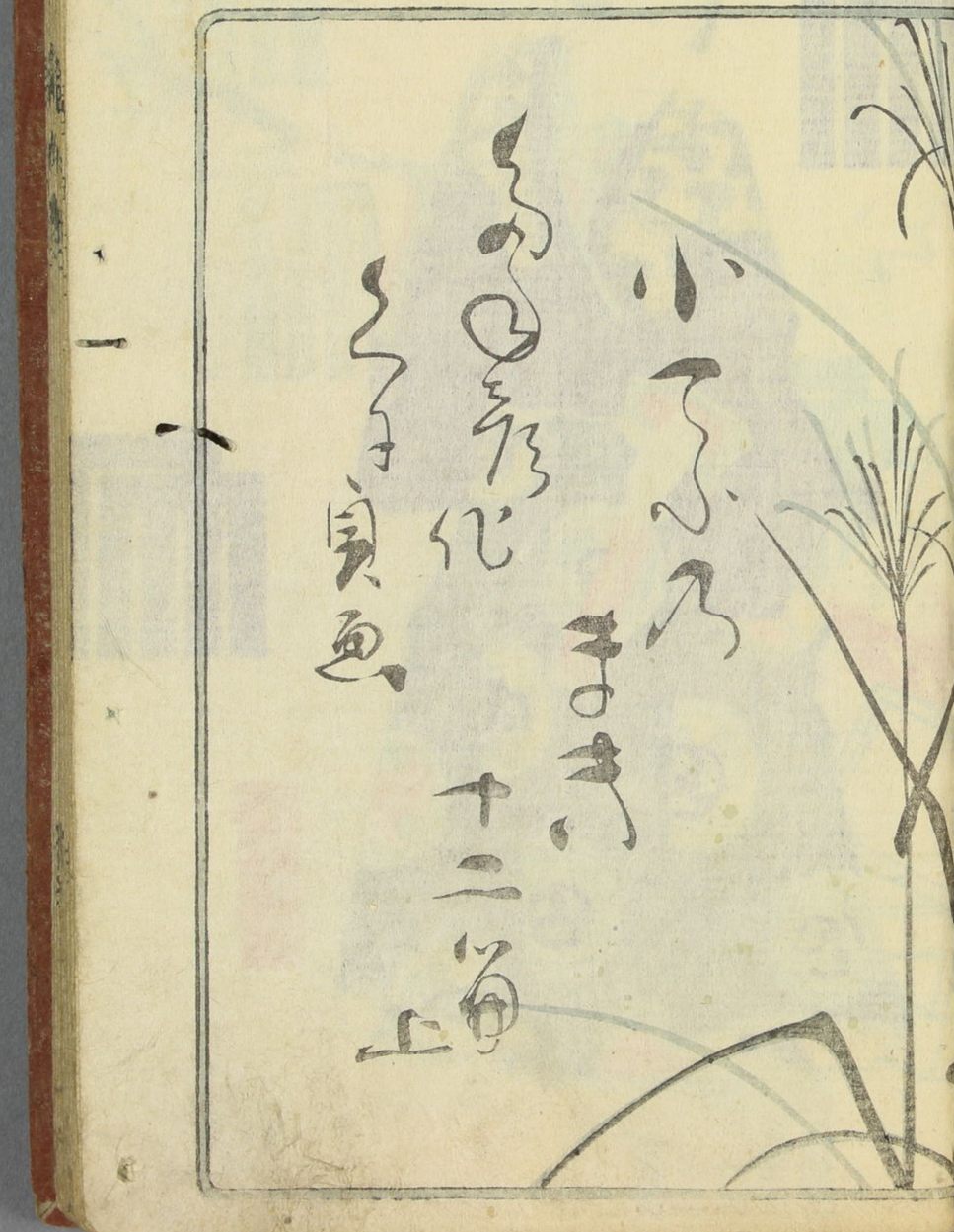
武士之墓

菊
蛍


鹿

夢

柳亭種彦著



十二段上

十二段下

讀のる紀本もるを紀よ讀本とい繪草紙よ對へ稱る名目
るゝ〳〵ん児女子の目を悦ばせるふ古来繪を專とし詞を加へ
繪の意説〳〵をもてるゞと紀と云詞ハ客亜ハ主もて作者を淨
瑠璃語ふ此亜工をゞ三線みゞ紀よ准ふ非ゟり讀本ハ作者を
一ゟ一續草紙ハ亜を二とせゞ拙辞いるまゝゞゝよ漆て繪まゝで
の殿ともるゝ〳〵めど讀本よりハも長〳〵るる續き物の一徳と作者
ゟ〳〵先尋おとるゝハ吾當黨の幸るゞ〳〵と獨よろこゞ草
る窓外ふ飛交蝶の都雅ゆゝて俗薬るゝの虫チウとゝ。
ニヤアとも鳴バ却て難をつけゝゝん默るふ如ゞと止る筆
を復之るゝる世計いるゞハせんと背ハ汗しゝて

慶應三年麗月

柳亭種彦自叙

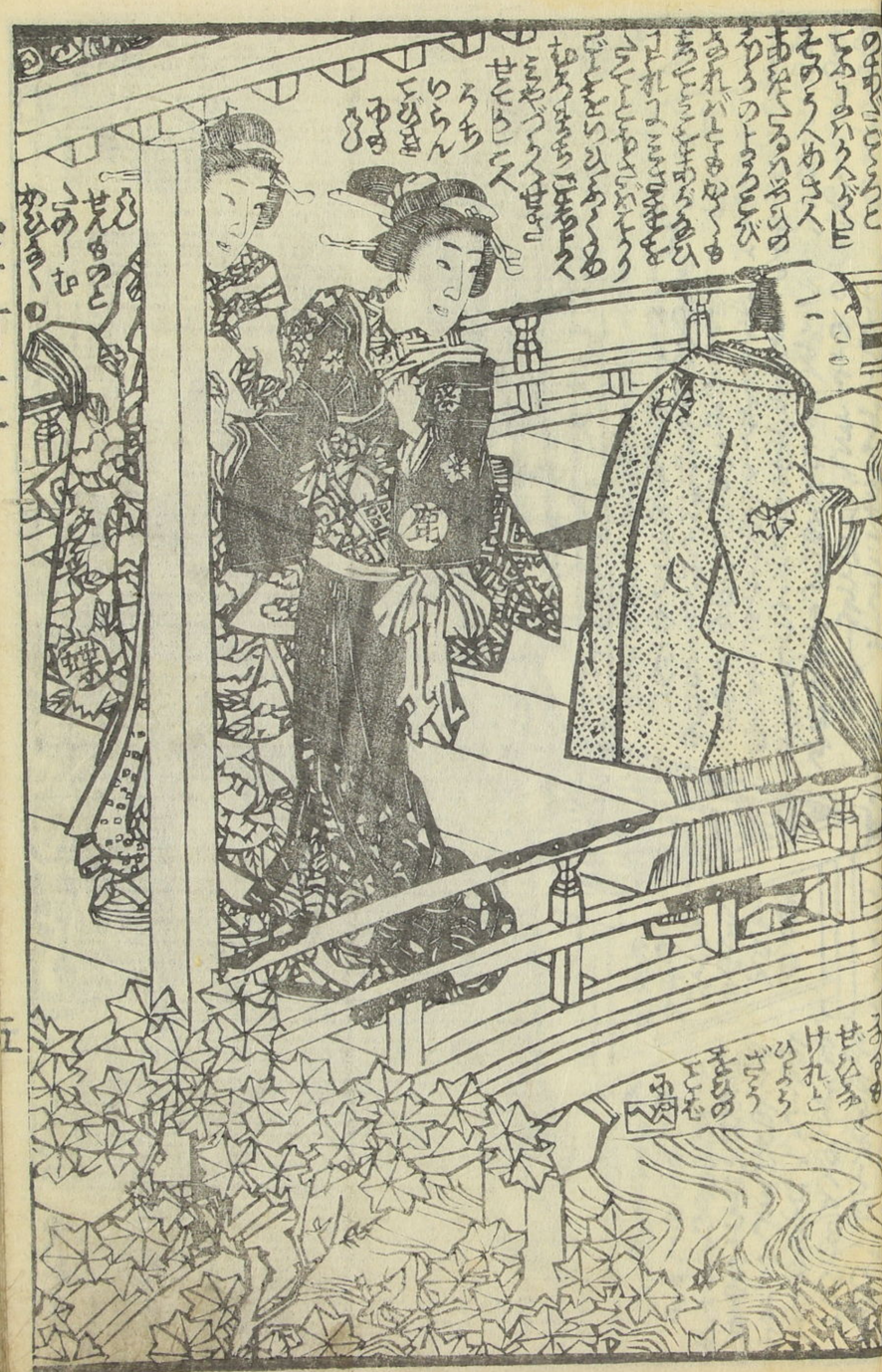
○伏見里の雪の王

○露ゆ宿かる月の刀白

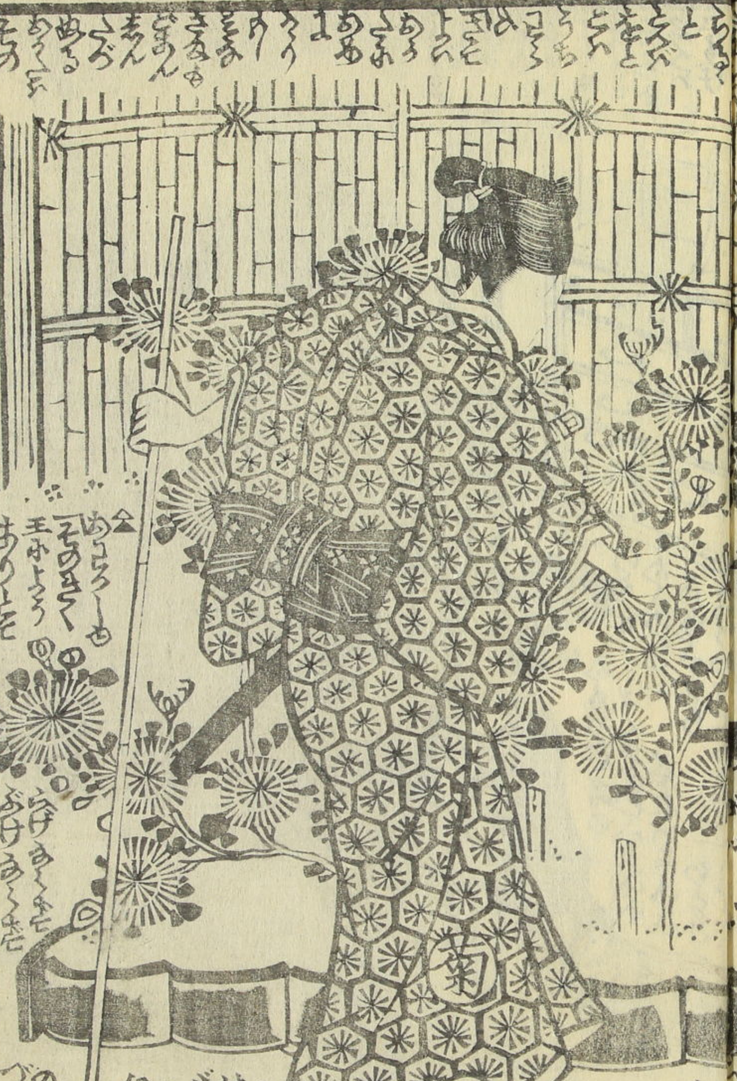
○室町の花の君

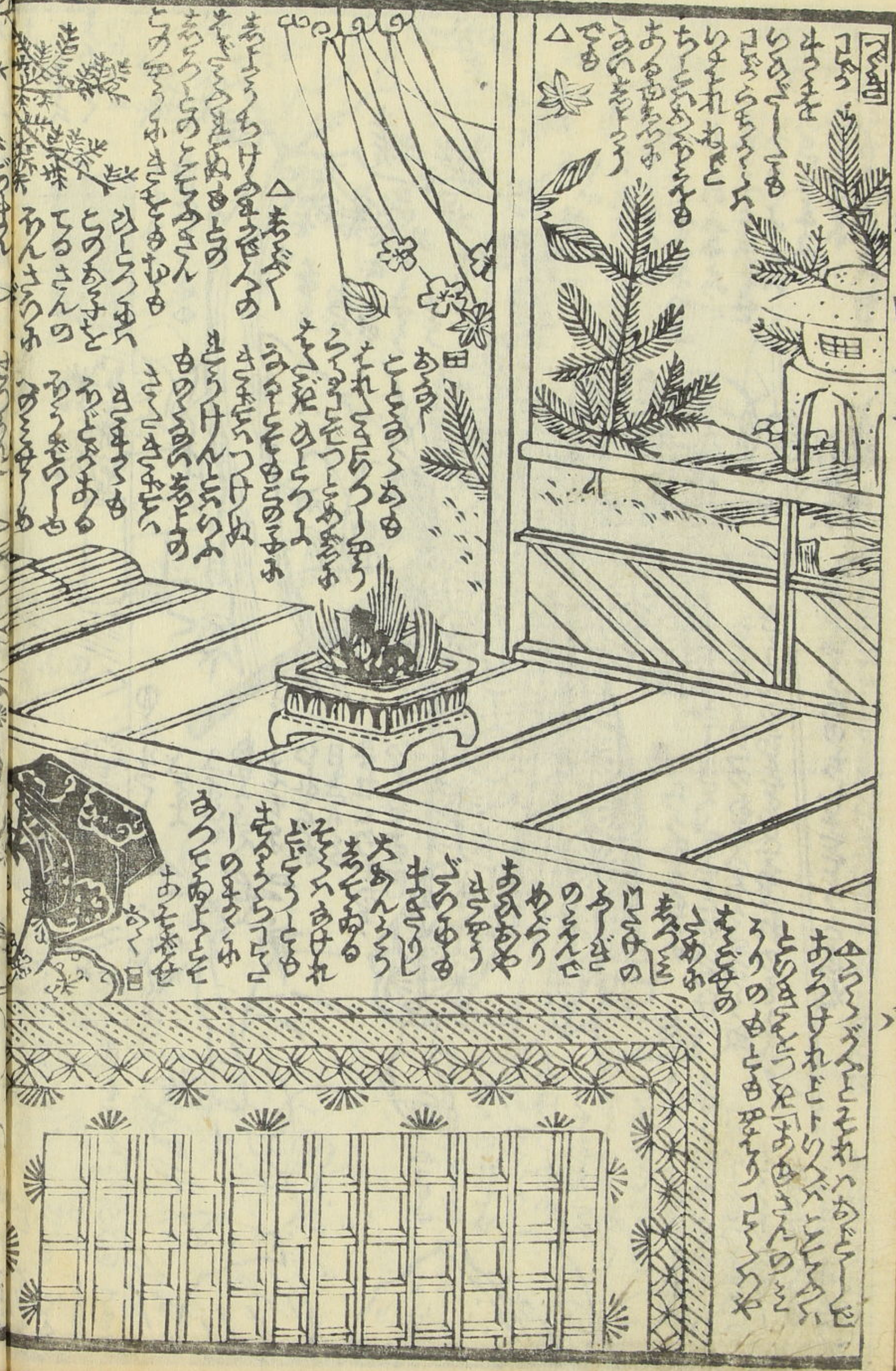
独鳴
かどや

氷



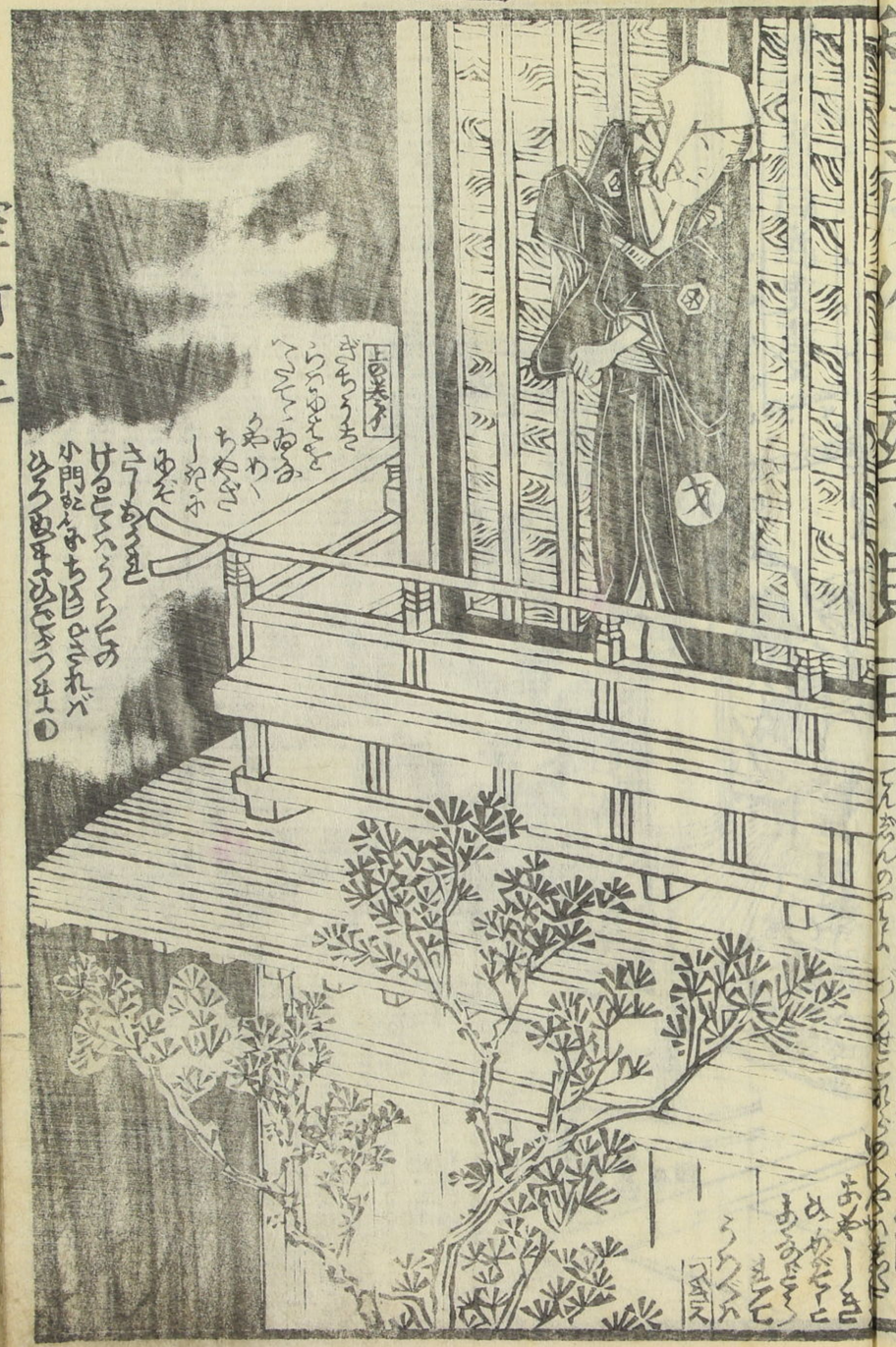
蝶
鹿

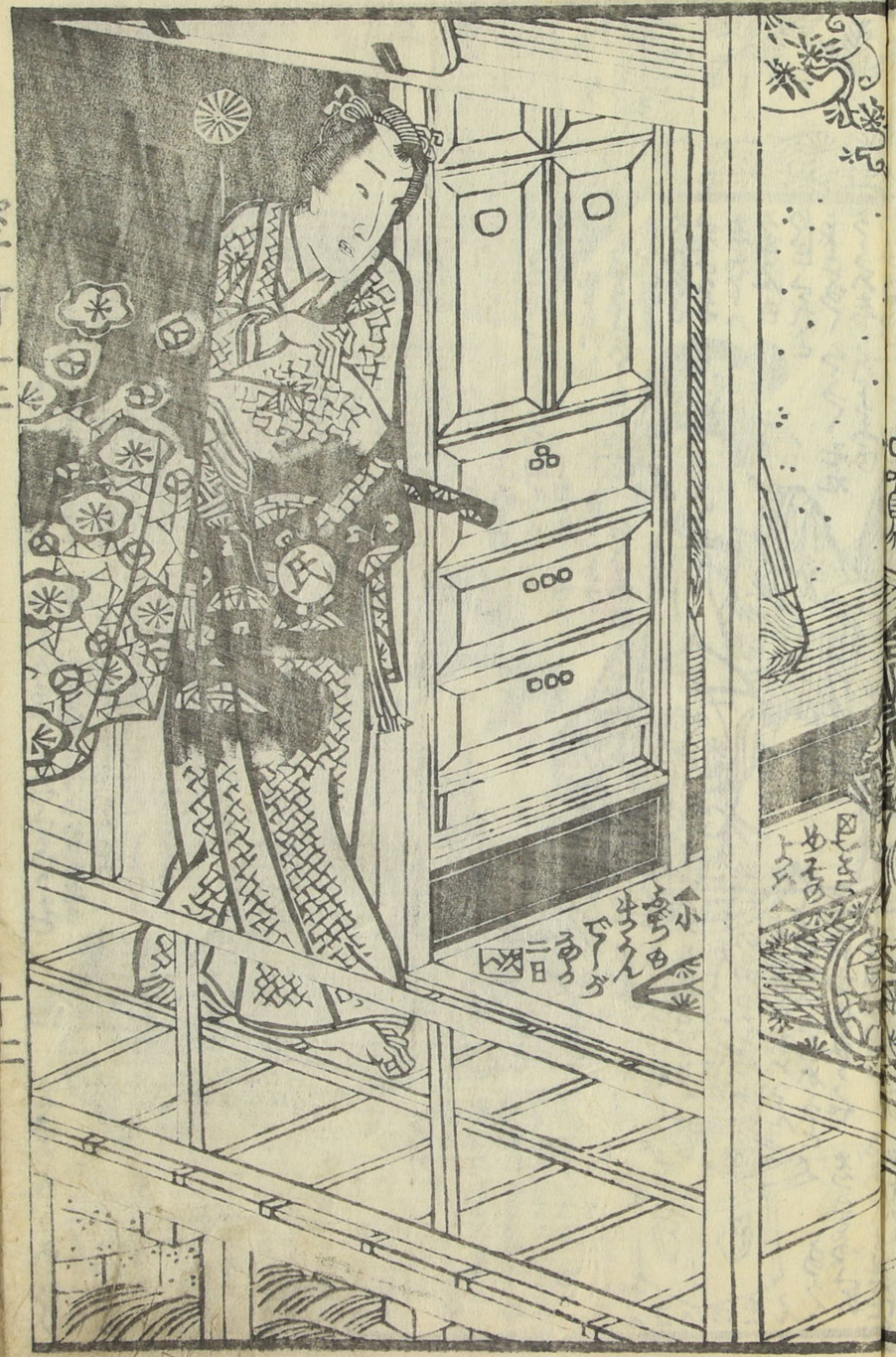




弥

種彦作 國貞画


上の美少
ぎちうちも
らいのゆえを
へてそこゐる
ゐわくも
ちやさ
しれか
ゆえ
さうゐうえ
けるとこういうこと
小門のなかちに
ひとつ四半ひらかれ
ばかりの
うらくち



物化舊同遊豊夢

孫

伊勢神宮道
永代常夜燈

種彦作　國貞画

新局九尾傳　七編より十一編まで　爲永春水作　梅世捜國貞重

室町源氏胡蝶巻　十二篇　種彦作
十三篇
十四篇　國貞画
十五篇

假名情談戀睡舎　四編　如皐作
大尾　國貞画

童謡妙々車　廿二編　種彦作
廿三編
廿四編　國貞画

薄倖幻日記　十七編　春水作
十八編
十九編　國貞画

七福き葛飾譚　九編　種彦作
十編
十一編　國貞画

筆海四國聞書　十一編　種彦作
十二編
十三編　國貞画

明鴨墨画廼福　十三編　種彦作
十四編
十五編　國貞画

花封含玉章　十編　種彦作
太尾　國貞画

犬傳犬の双紙　四十九編　柳亭録
五十編
五十一編　國政画

南傳馬町壹丁目
蔦屋吉藏梓

Ranamusi